

事業所名

アソシアホイスコーレ

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7 年

8 月

1 日

法人（事業所）理念		自尊心を大切にする。「もし自分だったら」という視点を持ち常にクライアントの立場に立って考える。									
支援方針		利用される方も働くスタッフも、自身の強みを見出すことで集団において役割（居場所）を持ち安心して成長できる機会を提供する。									
営業時間		10	時	30	分から	14	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。アルバイト等も行う利用者もいるため、職業生活を維持するための睡眠・食事の重要性等についても本人が理解できるよう支援していく。									
	運動・感覚	週1日は定期的な運動の機会を設け、身体感覚を育むのみならず、運動のもたらす精神的な効果についても、一緒に振り返り等を行うことで、社会生活を営む上で有意義な運動習慣の獲得を目指す。									
	認知・行動	発達障害や精神疾患等の影響もあり、0か100かの極端なものの捉え方考え方、被害的な認知、その認知からくる対人トラブル等社会生活を営む上で、支障のする認知・行動については出来る限り客観的な視点で物事を整理し、自己を俯瞰的に見るための支援を実施する。また不適切な認知からくる行動の修正等についても、適宜フィードバックを行いながら本人の直面するトラブルをとともに解決していく。									
	言語コミュニケーション	言葉を用いて自分の感情や心境を表現することを促し、未分化な感情に対し丁寧に定義づけすることを目指していく。このプロセスの中で、自己理解を深め、社会生活に支障のする感情表出や行動等を低減させることに加え、挨拶やノンバーバルなコミュニケーション等がもたらす影響についても一緒に考え、どのような言葉や態度で他者に関わっていくのかを学ぶ。									
	人間関係社会性	社交的になる、上手に話ができる、活発になる等ことを目指すのではなく、社会生活において相手や所属集団を不快にさせない行動はどのようなことを学ぶ。また自分の意見や要望を極端に抑制するという対処法を身に着けている児童にたいしては、アサーティブコミュニケーション等を教示し、活用できるよう支援していく。									
家族支援		15歳～18歳の無業状態の児童は、かかわれる期間が少ないことから家庭の孤立を防ぎ、アルバイトや進学等の次のステップにつながるような支援を実施する。						移行支援		アルバイトや就職活動の支援を行い、面接練習や履歴書の作成、必要に応じた職場開拓等を実施する	
地域支援・地域連携		毎月2回～3回は外出プログラムを活用し、地域の社会資源の活用方法を初め、同じ利用者との交流を深める機会を提供している。						職員の質の向上		毎月1回研修を実施。指定基準上の法定研修に加え、職員自身の自己覚知を深めるためのMBTI研修、面談スキル等の向上を目指しオープンダイアログ研修を実施。	
主な行事等		8月は新入生と在校生の交流をかねてBBQを実施。9月に1回音楽ライブの活動を企画、演奏等を行い、大勢の前で発表する機会を作っている。10月のハロウィーンについてはスタッフ、利用者が参加し仮装のコンテストを実施。2月には宿泊研修を行い交流を深める。									

事業所名

アソシアホイスコーレ

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7年

2 月

1 目

法人（事業所）理念		自尊心を大切にする。「もし自分だったら」という視点を持ち常にクライアントの立場に立って考える。									
支援方針		利用される方も働くスタッフも、自身の強みを見出すことで集団において役割（居場所）を持ち安心して成長できる機会を提供する。									
営業時間		10	時	30	分から	14	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。アルバイト等も行っている利用者もいるため、職業生活を維持するための睡眠・食事の重要性等についても本人が理解できるよう支援していく。									
	運動・感覚	週1日は定期的な運動の機会を設け、身体感覚を育むのみならず、運動のもたらす精神的な効果についても、一緒に振り返り等を行うことで、社会生活を営む上で有意義な運動習慣の獲得を目指す。									
	認知・行動	発達障害や精神疾患等の影響もあり、0か100かの極端なものの捉え方考え方、被害的な認知、その認知からくる対人トラブル等社会生活を営む上で、支障のする認知・行動については出来る限り客観的な視点で物事を整理し、自己を俯瞰的に見るための支援を実施する。また不適切な認知からくる行動の修正等についても、適宜フィードバックを行いながら本人の直面するトラブルをとともに解決していく。									
	言語コミュニケーション	言葉を用いて自分の感情や心境を表現することを促し、未分化な感情に対し丁寧に定義づけすることを目指していく。このプロセスの中で、自己理解を深め、社会生活に支障のする感情表出や行動等を低減させることに加え、挨拶やノンバーバルなコミュニケーション等がもたらす影響についても一緒に考え、どのような言葉や態度で他者に関わっていくのかを学ぶ。									
	人間関係社会性	社交的になる、上手に話ができる、活発になる等ことを目指すのではなく、社会生活において相手や所属集団を不快にさせない行動はどのようなことを学ぶ。また自分の意見や要望を極端に抑制するという対処法を身に付けている児童にたいしては、アサーティブコミュニケーション等を教示し、活用できるよう支援していく。									
家族支援		通信制高校の利用者を対象としているため、世帯のみで活動している状況を緩和することでレスパイトを行うことに加え、進路相談や学習相談を行うことで家庭のみならず卒業後の計画を一緒に立てることができる。						移行支援		高校3年生になった際は、アルバイトや就職活動の支援を行い、面接練習や履歴書の作成、必要に応じた職場開拓等を実施している。	
地域支援・地域連携		毎月2回～3回は外出プログラムを活用し、地域の社会資源の活用方法を初め、同じ利用者との交流を深める機会を提供している。						職員の質の向上		毎月1回研修を実施。指定基準上の法定研修に加え、職員自身の自己覚知を深めるためのMBTI研修、面談スキル等の向上を目指しオープンダイアログ研修を実施。	
主な行事等		8月は新入生と在校生の交流をかねてBBQを実施。9月に1回音楽ライブの活動を企画、演奏等を行い、大勢の前で発表する機会を作っている。10月のハロウィーンについてはスタッフ、利用者が参加し仮装のコンテストを実施。12月提携している通信制高校のスクーリングを4泊5日がある。2月には宿泊研修を行い交流を深める。3月高校3年生は家族も参加し卒業式を実施。									